

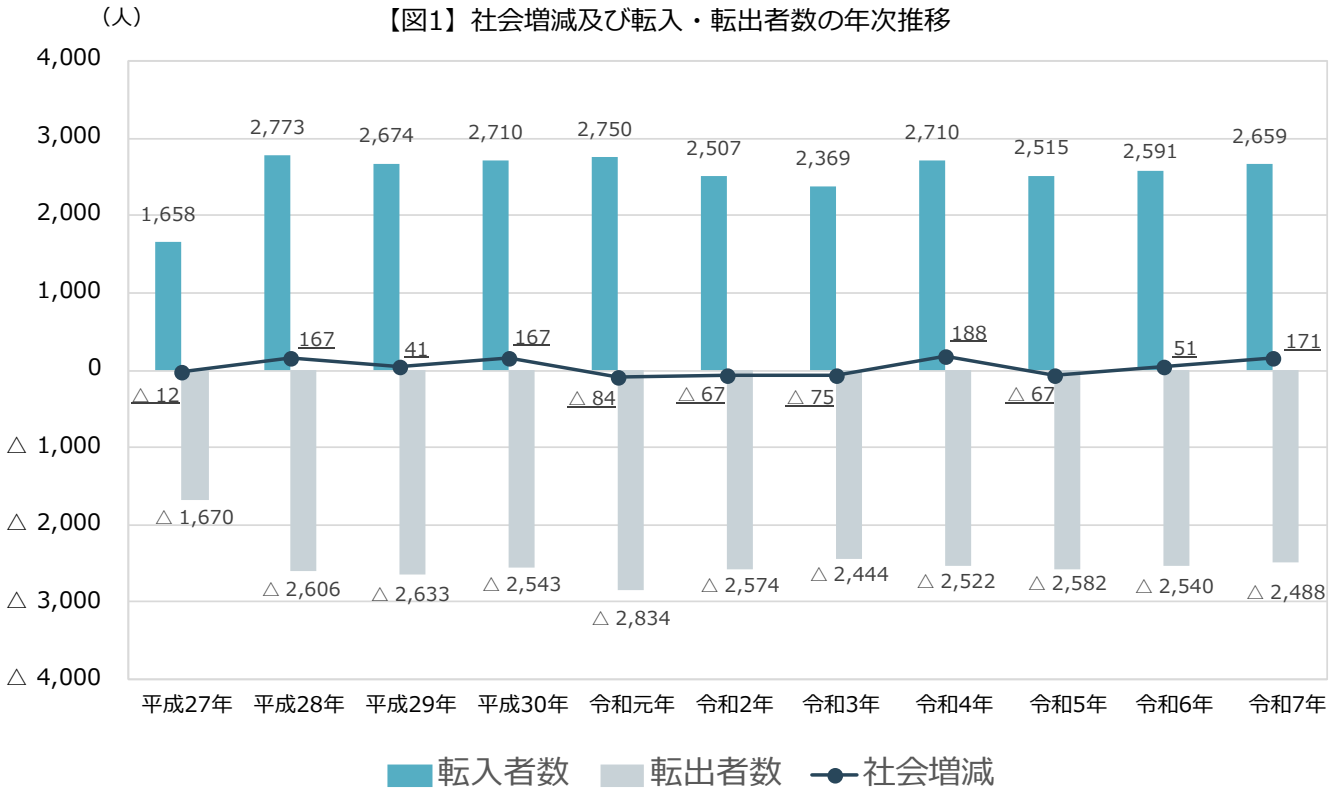
令和7年塩尻市人口動態分析

社会増減の構造と地域的特徴

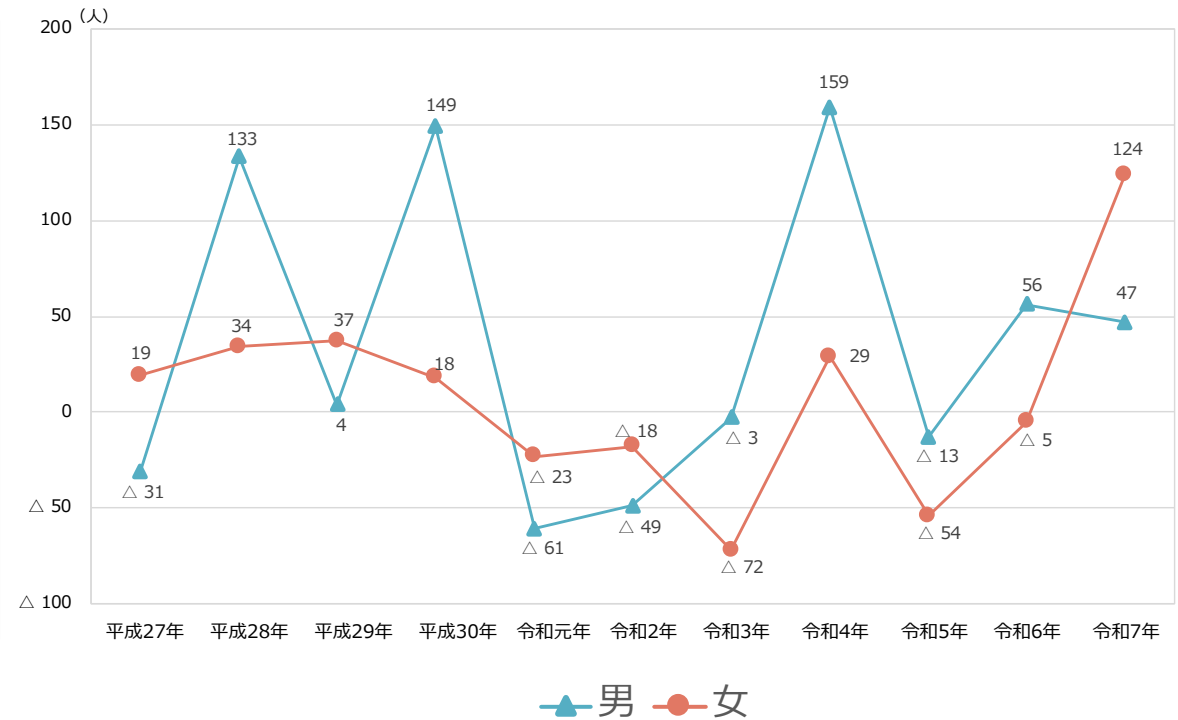
社会増減の推移と全体像

- ・令和7年の人口動態について、転入者が2,659人に対し、転出者を2,488人に抑えた結果、+171人の社会増（転入超過）を達成した。
- ・令和7年は、転入超過のピークであった令和4年（+188人）と比較すると、増加幅は落ち着きを見せているものの、安定した社会増を維持している。
- ・今回の社会増（転入超過）の内訳については、男性+47人、女性+124人となっており、女性の流入が全体の7割以上を牽引している。
- ・女性の社会増（+124人）は過去10年間で突出して高い数値であり、本市の施策や住環境が特に若い女性に選ばれている要因となっている可能性が高いと考えられる。

【図1】社会増減及び転入・転出者数の年次推移



【図2】男女別_社会増減の年次推移

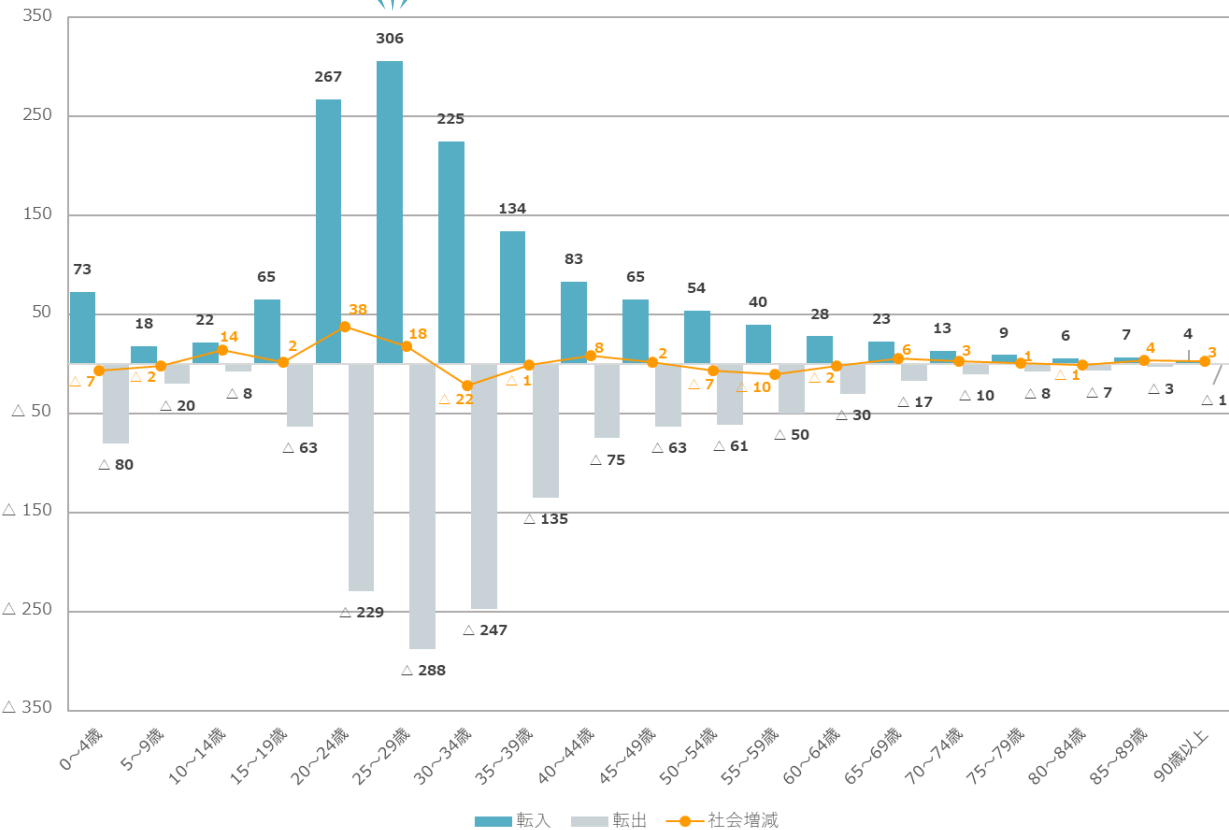


年齢5歳別×転出入 人口移動ピラミッド

- ・ 25～29歳（計597人）が最大の流入源であり、15～19歳で流出した層が、就職や結婚等のライフステージの変化の際に、25～29歳に再び本市を選択して流入している傾向が見られる。
- ・ 25～29歳の若年世帯に加え、35～39歳及び0～4歳の子ども世代が揃って転入超過を維持しており、子育て世帯の定着が着実に進んでいる。

【図3】年齢5歳別×転出入

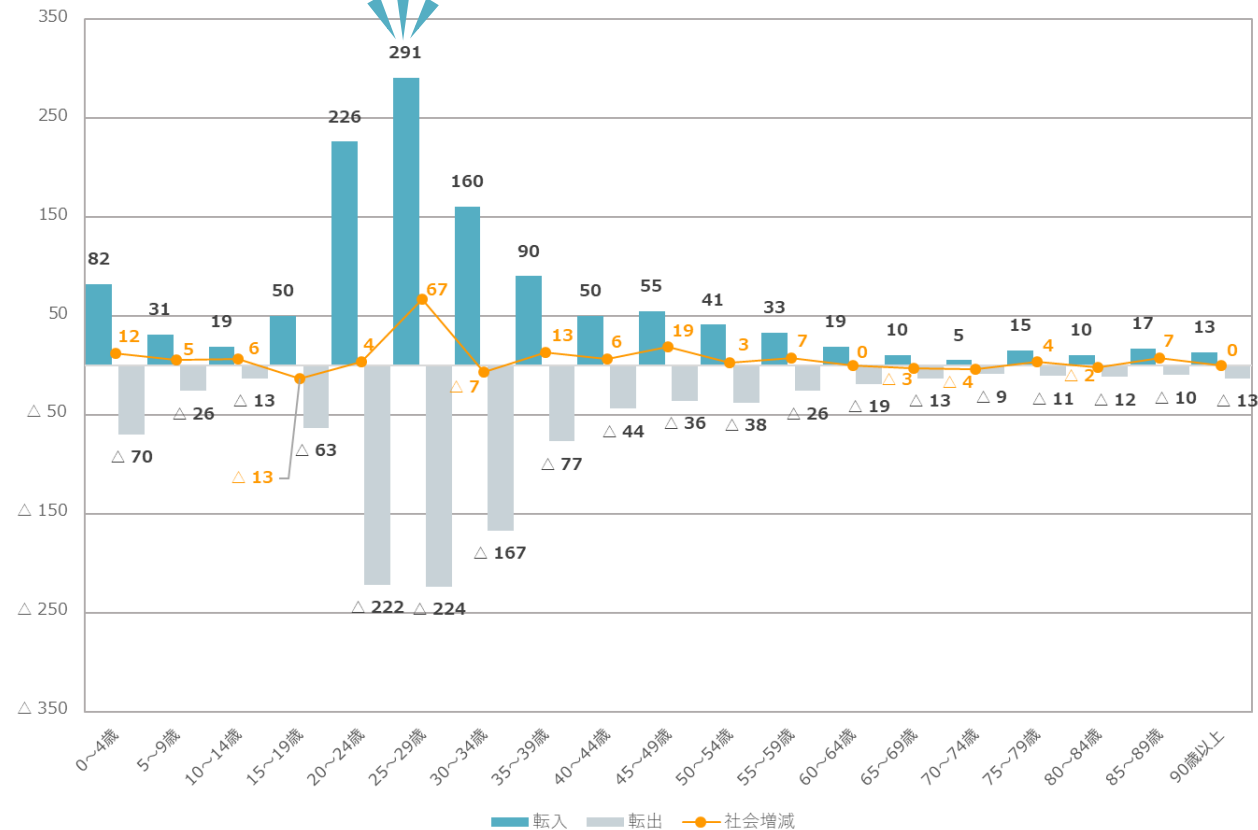
男性



単位：人

【図4】年齢5歳別×転出入

女性



単位：人

年齢5歳別×地区別（町字） 流入・流出パターン

【図5】地区別（町字）×年齢5歳別の社会増減のヒートマップ

単位：人

・ 広丘野村では、大規模事業所の立地により、職住近接の利便性が高く、20～24歳（+38人）や25～29歳（+20人）の流入を促進し、地域全体の人口増加に寄与していると考えられる。

・ 広丘高出では、25～29歳（+30人）や30～34歳（+6人）の流入が顕著であり、宅地分譲が進んだことで、若年世帯や子育て世帯の定住先として選ばれる傾向が強まっていると考えられる。

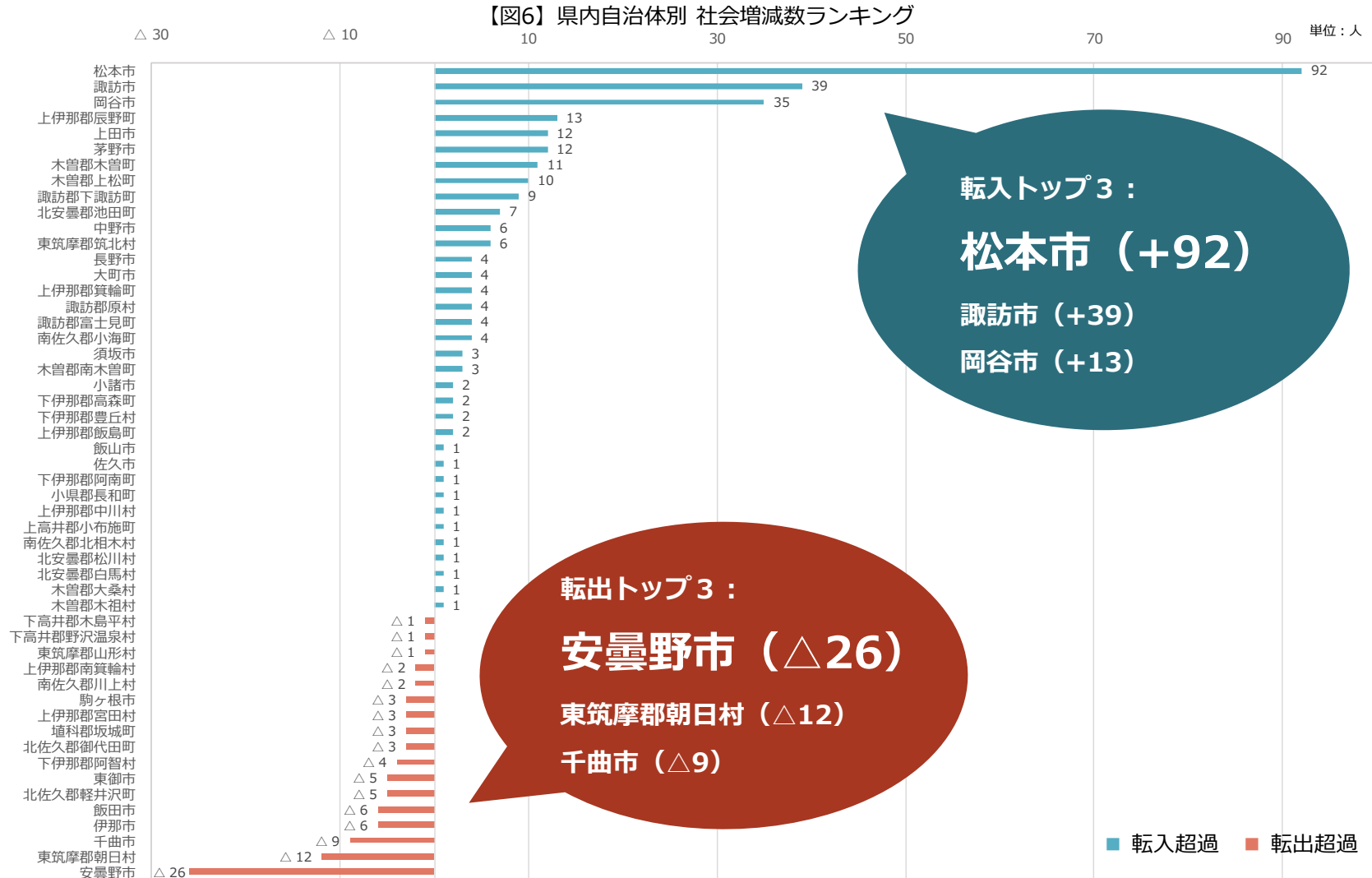
・ 大字大門では、25～34歳（+39人）と0～4歳（+19人）が突出しており、塩尻市駅北土地区画整理事業に基づく計画的な宅地供給が、子育て世帯を強力に惹きつけていると考えられる。

・ 一方で、片丘や北小野、檜川などでは、若年層の流出が目立っており、人口減少傾向が続いている。

地区別（町字）	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
大門一番町	2	0	0	-1	6	2	0	0	0	-1	0	-1	0	0	-1	0	0	0	0
大門二番町	-3	0	0	-4	1	1	-5	1	2	-1	1	1	1	-2	-1	0	0	0	0
大門三番町	-3	0	0	2	0	-1	-3	0	2	1	2	1	0	-1	0	0	1	0	0
大門四番町	-1	0	0	0	1	-1	3	0	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0
大門五番町	0	-2	0	-3	-2	2	-4	0	-5	1	0	0	-1	0	0	0	0	0	0
大門六番町	1	0	0	-2	-4	1	2	0	0	1	2	0	1	0	0	0	-1	0	0
大門七番町	0	0	0	0	19	-5	-3	-1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
大門八番町	0	0	0	1	-1	0	0	0	0	-1	-2	0	0	0	2	1	1	2	-1
大門泉町	0	1	-2	5	1	0	-1	2	0	2	-1	-2	-2	-1	-1	0	0	0	0
大門幸町	2	0	0	0	2	0	2	-2	-1	1	0	-1	-1	-1	0	0	0	0	0
大門並木町	0	0	0	-3	-2	-1	-1	0	-2	-1	-2	-1	-1	0	0	0	0	0	1
大門桔梗町	0	0	-1	-4	-1	2	3	4	1	0	2	1	1	-1	0	0	0	-1	0
大字大門	19	8	6	5	-2	20	19	12	7	4	-3	-4	-1	2	-1	0	1	0	1
大門田川町	-1	1	1	0	0	0	1	1	0	-1	-1	1	0	-1	-1	1	0	0	0
大字旧塩尻	0	0	0	-1	0	0	-1	-1	-1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0
大字柿沢	-1	0	2	1	-1	-4	2	-2	0	-1	1	0	0	1	0	1	0	0	0
大字金井	-1	0	1	-1	-3	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	-1	0	0
大字上西条	0	0	0	0	0	1	2	0	-1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
大字中西条	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
大字下西条	1	-1	0	-1	-6	-3	-2	0	2	1	0	0	0	-1	0	0	-1	0	0
大字堀ノ内	4	0	0	0	-1	4	0	-1	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大字長畝	0	0	0	0	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大字棧敷	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大字塩尻町	3	-3	2	-2	-7	-6	4	4	5	1	2	3	0	1	1	1	-1	0	0
大字大小屋	-1	0	0	-1	-3	3	2	-4	-1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大字みどり湖	1	0	0	0	-3	2	0	0	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大字峰原	0	-1	0	-4	-7	-5	-3	-1	1	0	1	-1	-2	0	0	0	0	0	0
大字片丘	-2	0	1	3	-7	-8	-4	-5	2	3	0	-2	-3	1	1	3	-2	-1	2
大字広丘原新田	-7	3	0	-2	1	15	-1	-1	-2	-4	3	0	-1	1	2	-2	0	0	-1
大字広丘磐石	-7	-1	1	4	8	9	-2	-6	-8	3	4	0	-4	0	-1	-1	-2	1	1
大字広丘郷原	-1	2	1	10	13	3	-7	0	1	4	3	3	1	0	-1	0	2	4	1
大字広丘野村	2	-4	0	-2	38	20	-24	3	0	8	-5	-3	3	-1	1	0	1	1	0
大字広丘高出	4	-3	-2	5	6	30	6	9	2	-6	-4	-3	0	3	-1	0	0	5	2
大字広丘吉田	-10	1	6	-4	13	12	-17	-5	15	-2	-3	-2	2	-1	-2	-2	0	0	-1
大字洗馬	3	0	1	-6	-9	7	-2	-2	2	2	-5	3	3	2	1	1	0	0	0
大字宗賀	3	1	4	-3	0	-14	11	8	-2	3	-2	0	-1	1	-2	3	1	1	-1
大字北小野	1	0	0	-3	-3	2	-7	0	-3	-1	1	2	3	0	1	-1	1	0	0
大字鶯川	0	1	-1	-1	-3	0	1	1	0	1	0	-1	-1	0	0	0	-1	0	0
大字木曾平沢	-3	0	0	1	-1	-4	1	-1	-2	-2	1	0	1	-1	-1	0	0	0	0
大字奈良井	0	0	0	0	-1	1	0	-2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	-1	-1

県内自治体との移動実態

- ・松本市（+92人）や岡谷市（+39人）といった近隣都市から大幅な転入超過となっており、本市が周辺地域における「住居の選択肢」として強く支持されている。
- ・一方で、安曇野市（△26人）に対しては、県内で最大規模の流出超過となっている。3ページ（年齢5歳別×男女別）及び4ページ（年齢5歳別×地区別（町字））の傾向を踏まえると、子育て環境や住宅取得のタイミングで安曇野市が比較対象となっている可能性が高い。



県外自治体との移動実態

- ・愛知県（+25人）を筆頭に、都市圏からの安定的な流入が確認できることから、就職やライフステージの変化に伴う「地方回帰」の受け皿として機能している可能性がある。
- ・東京都（△59人）や埼玉県（△29人）への流出は依然として多いため、進学・就職期における若年層の流出抑制が引き続き重要である。
- ・県外から獲得した20代後半の層を、数年後に近隣自治体（安曇野市等）へ流出させないための定着施策との連動が不可欠である。

【図7】 県外自治体別 社会増減数ランキング

